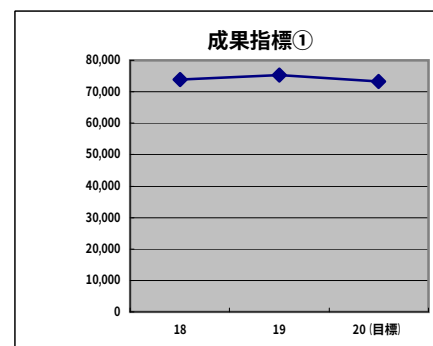
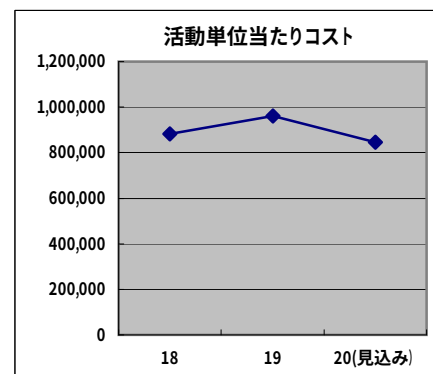


事務事業名		公用車管理事業		予算科目	会計	1	一般会計
					款	2	総務費
まちづくりの目標(章)		5	信頼に基づく市民とともにつくるまち		項	1	総務管理費
施策(節)		3	行財政運営		目	6	財産管理費
施策の方向					事業	2	車輛管理
総合基本計画				作成部署	総務部管財用地課		
関連する計画等				連絡先	072 - 958 - 1111 内線 1900		
事業の目的	対象(誰を・何を)						
	職員						
	意図(どういう状態にしたいのか)						
事業の内容	少ない車輛で職員が安全かつ効率的に、市民サービスできるように公用車を配置する。						
	車輛修理・配車・給油						
根拠法令等							
事業開始時期 ☐ 昭和 ☐ 平成 年 月開始 ☒ 明確にはわからない 終了年度 平成 年度							
事業開始時からの状況変化 各課部専属車を縮小して、変更後9台公用車を少なくした。							
市民や議会の要望							
実施手法 ☒ 直営 ☐ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助金・助成金 ☐ その他()							
委託先		☐ 外郭団体委託	名称	委託内容			
		☐ 民間委託					

区 分		18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (見込み)
事業費【1】 (千円)		114,821	105,525	89,533
人件費【2】 (千円)		21,000	25,200	17,900
職員数	正規職員	2.50 人	3.00 人	2.00 人
	再任用職員	0.00 人	0.00 人	0.50 人
	嘱託職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	臨時職員	0.00 人	0.00 人	0.00 人
	超過勤務(参考) (時間)	0.00 時間	0.00 時間	0.00 時間
総事業費 (【1】 + 【2】) 【A】 (千円)		135,821	130,725	107,433
財源内訳	国費 (千円)			
	府費 (千円)			
	市債 (千円)			
	その他 (手数料・使用料等) (千円)			
	一般財源 (千円)	135,821	130,725	107,433
活動指標(事業の活動実績)【B】 単位		18年度	19年度	20年度(目標)
① 事業費の削減率		154	136	127
②				
③				
活動単位当たりコスト (【A】 / 【B】 ①)		881,955 円	961,213 円	845,929 円
市民1人当たりコスト (【A】 / 人口)		1,128 円	1,089 円	896 円



成果指標 (事業目的の達成度を測る指標)	指標名		指標設定の考え方		平成18年度	平成19年度	平成20年度
	①	効率的な公用車の管理 (式)	効率的な公用車の管理	目標	77,784	76,524	達成率(%)
				実績	73,949	75,217	98.3%
	②	効率的な公用車の管理 (式)	燃料使用量(軽油)	目標	40,548	38,568	達成率(%)
				実績	34,464	38,872	100.8%

市の関与の必要性	市の関与が必要な理由									評価	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	必要性	分析・評価の説明
	法令上の義務	受益者が不特定多数	最低限の生活水準を確保	市民の不安を解消	社会的経済的弱者を対象	民間だけでは負担しきれない	民間だけでは供給不足	市の特色等を市内外へ発信	第三者にも受益がある	有	多数の車輛を管理する時は安全運転管理者及び副安全運転管理者を選任し車輛管理をしなくてはならない。
○											

分析・評価	視点	分析のためのチェック点	はい	いいえ	該当なし	分析・評価の説明
	妥当性	市民ニーズが高い	☐	☐	☒	市の事務処理、車輛購入は不可欠である。
		市民ニーズに比較してサービスの供給過剰となっていない	☐	☐	☒	
		社会情勢の変化に対応している	☐	☐	☒	
		他市の水準と比較しても、対象範囲や水準を見直す必要がない	☐	☐	☒	
		国・府の事業と重複していない	☐	☐	☒	
		事業を休止、廃止した場合の影響度が大きい	☒	☐	☐	
		緊急性が認められる	☐	☐	☒	
	効率性	単位コストが適切である（経年、他市比較など）	☐	☐	☒	自家タンクにより、災害時でも給油できる。 入札し安く給油している。
		受益者負担の割合は適当である	☐	☐	☒	
		人員を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		事業費を削減する余地がない	☒	☐	☐	
		簡略化できる方法や手段がない	☒	☐	☐	
		市の他事業と重複していない	☒	☐	☐	
		民間活力（民間委託、NPO、ボランティア、PFIなど）の活用について検討の余地がない	☒	☐	☐	
	有効性	上位の施策（目的）が明確である	☐	☒	☐	羅針盤からの予約としたため半日の予約が時間単位の使用となった。
		上位の施策（目的）への貢献度が高い事業である	☒	☐	☐	
		成果を向上させる余地がない	☐	☒	☐	
		市民の視点にたってサービスが提供されている	☐	☒	☐	
	協働性	事業の企画、立案に市民が参加している	☐	☒	☐	
		事業の実施に向けて、市民と情報の共有が図られている	☐	☒	☐	
		事業の実施について積極的に市民の意見を反映している	☐	☒	☐	
		事業の実施に市民の参加、協力が得られている	☐	☒	☐	
	達成度	成果指標の目標値は適正である	☒	☐	☐	
		成果指標の実績値は目標値以上である	☒	☐	☐	
		成果指標は前年度より向上している	☒	☐	☐	

担当部局評価	総合評価	
	☐ 拡大・充実 ☐ 現状維持 ☐ 方法改善 ☐ 民営化・民間委託 ☒ 縮小 ☐ 廃止・休止 ☐ 完了	
	評価の理由	
	公用車数の減車に努め、羅針盤からの予約を管理職にしたため、1台1台の稼働率が上がった。 今後に向けて（取組方針、具体的な改善改革案など）	
	ハイブリッド車や電動自転車及びバイクを増大し環境問題また駐車苦情を少なくしたい。	